

# 上野の 寄り道 散歩道

第4回

## 「上野動物園散策」

東京藝術大学がある上野は、歴史や伝統と新しい文化が交差するスポットとして、観光に訪れる人も多い。藝大のすぐ近くにも、由緒ある杜寺や老舗、意外なエピソードを秘めた穴場が目白押しだ。大学から少しだけ足を延ばして、小さな旅に出てみよう。



### 1 モノレール

懸垂式モノレールのなかでも、とくに「上野式」と呼ばれる。このモノレールは当初の目的である都電や路線バスに代わる交通手段とはならなかったが、貴重な産業遺産といえる。

### 2 五重塔

上野東照宮から寛永寺を経て東京都に寄付され、現在は動物園内の施設として保存されている。高さ約三十二メートル。初層の東西南北に薬師・阿弥陀・弥勒・釈迦の四方仏を安置している。重要文化財。



今年の四月から二頭のジャイアントパンダが公開されている「上野動物園」(正式名称は「東京都恩賜上野動物園」)は、一八八二(明治十五年)年に開園した。今回はこの日本最古の動物園を、動物以外に注目しながら散策してみよう。

JR上野駅(公園口)から徒歩五分。上野公園(正式名称は「上野恩賜公園」)のなかにあり、東園と西園の両園は、モノレールで結ばれている。この懸垂式のモノレール(正式名称は「上野懸垂線」)は東京都交通局の運営で、もともと戦後の都内の交通渋滞を緩和するため、路面電車や路線バスに代わる近距離交通手段として研究開発されたものである。一九五七(昭和三〇)年に開業した日本で最も古いモノレールだ。

正門のゲートをくぐると、右手には大人気のジャイアントパンダ舎、左手奥には五重塔が見える。一六三二(寛永八)年に土井利勝が上野東照宮に寄進したこの塔は、一六三九(寛永十六)年に焼失。現在の塔は、焼失後に建造されたもの。明治の神仏分離によって寛永寺の帰属となり、戦後は東京都が管理するようになった。

東園にはほかにも古建築が建つ。茶室「閑々亭」だ。一六〇三(慶長八)年、徳川家康が江戸に幕府を開いてまもなく、上野動物園東園から



**3 閑々亭**  
 もともとは藤堂高虎が建てた寒松院の茶室だった。寒松院は一八六八年に彰義隊の戦いで焼け、一八七八年に閑々亭だけが復旧され、その後たび重なる補修のうえ現在に至っている。

**4 旧正門**  
 設計者の新家孝正(一八五七年〜一九二〇年)は、明治大正期に活躍した建築家。京都の「無鄰庵・洋館」(一八九八年)や、片山東熊「東京国立博物館・表慶館」(一九〇八年)などが知られている。



問い合わせ先  
 上野動物園 案内係  
 〒110-8711 台東区上野公園9-83  
 Tel03-3828-5171 (代) Fax03-3828-6475  
<http://www.tokyo-zoo.net/zoo/ueno/>



**5 サーライタイ**  
 タイの国家アーティストである建築芸術家アーウット・グンチューグリオン大佐が設計した。「サーライタイ」の建立は、東京都の協力により、タイ政府外務省・文化省が進行したプロジェクトであった。

東京都美術館のあるあたりが、藤堂高虎に与えられた。その後、寛永寺建立にあたって、高虎は土地を幕府に返上するとともに、屋敷跡に寒松院を建てて寄進。寒松院で休息をとる三代将軍家光の接待のために、高虎が建てたのがこの茶室だ。

閑々亭にいたる猛禽舎の手前、東京都美術館の西裏にあたるには、「旧正門」がある。一九二二(明治四十五年)に完成した表門は新家孝正設計。現在の旧正門は一九三四年(昭和九年)に完成。かつて存在した京成本線「博物館動物園駅」から来場者がアクセスしたなごりがある。東京国立博物館の西端に入り口の外観だけをとどめるこの駅は一九九七(平成九年)に営業休止となった。

二〇〇七(平成十九年)、日タイ友好二二〇周年を機にタイ政府から寄贈された「サーライタイ」(タイ風東屋)も目を惹く。サーライは、タイ独特の屋根や飾りを備え国の象徴とされ、アジアンウ舎の近くで絢爛とした輝きを見せている。

